

## 近世国学と鷺見文庫―東洋大学附属図書館蔵稲葉文庫目録と研究2

文学研究科国文学専攻博士後期課程満期退学 大内 瑞恵

### 山本嘉将氏コレクション 稲葉文庫について

東洋大学附属図書館に山本嘉将氏（一九〇八―一九九二）の旧蔵書（近代資料を含む）一三三三点が稲葉（とうよう）文庫の名称で蔵せられている。氏は『香川景樹論』（一九四二年 育英書院）、『近世和歌史論』（一九五八年 文京図書出版、一九九二年 パルトス社再版）、『加納諸平の研究』（一九六一年 初音書房）、『賀茂真淵論』（一九六三年 初音書房）などを出版し、未だ研究の進展していない近世後期和歌研究に先鞭をつけた研究者かつ、歌人である。『加納諸平の研究』序に、昭和三十四年（一九五九）に東洋大学に博士論文『加納諸平の研究』を提出し、三十五年に学位授与式が行われたことが記されている。この縁から東洋大学附属図書館に稲葉文庫が置かれたが、この蔵書には氏のなみなみならぬ蒐書と研究への熱意が如実にあらわれている。そして、そのままこの蔵書は近世和歌の貴重な資料群となつているといえよう。

稲葉文庫は、（一）香川景樹関連書目、（二）加納諸平関連書目、

（三）鳥取藩鷺見家関連資料などから構成されている。なかでも、江戸時代後期の鳥取藩の国学・和歌資料として写本や書簡が多く含まれ、本居宣長没後の国学者たちの動向が示されている点など、興味深い資料が多い。江戸後期国学者および鳥取藩関係者の書簡、およそ三百五十点が稲葉文庫に蔵されていることは注目される点である。

そのため、東洋大学に稲葉文庫が収蔵される以前、昭和五十年（一九七五）七月に稲葉文庫（山本家）へ国文学研究資料館が調査に入り、六三五点の資料の撮影が行われた。現在、そのマイクロフィルムは、国文学研究資料館において公開されており、閲覧が可能である。ただし、現在東洋大学附属図書館で所蔵する稲葉文庫このマイクロフィルムの内容が完全に合致しているかという点、そうではなく、国文学研究資料館のマイクロフィルムでのみ確認される資料、東洋大学附属図書館蔵稲葉文庫でのみ確認される資料なども存する。昭和五十年以後に、山本氏が手放された資料、また新たに

入手された資料などがあるということである。

このように、概要については既に、前稿（「近世国学と鷺見文庫―東洋大学附属図書館蔵稲葉文庫目録と研究」二〇一九年 東洋大学大学院紀要五五号掲載）において論述してあるため、本稿では割愛し、早速「稲葉文庫目録2 写本・刊本・草稿編」を提示する。

稲葉文庫目録2 〈写本・刊本・草稿編〉

通し番号(仮)・書名・著編者(書写者)・板元 写刊年・数量・請求番号・備考(蔵書印・旧蔵者情報など)の順に記す。また旧蔵者山本氏のカードメモを括弧(メモ)にて記す。

132 小林大茂詠草 小林大茂著

写(仮綴) 5冊 TY911.17:Y-339-1~5

山本メモ「大茂晩年の詠草であるが、旧詠も録して、何れも飯田年平の点を受け、それを綴って五冊に達した。年平尚徳館出仕の万延元年に始まり、翌文久元年眼疾により致仕後、熱心にして、慶応二年失明、慶応三年代筆。大茂自筆。眼疾後の筆意は特にすばらしいと森繁夫氏評」朱・墨合点、訂正あり。

133 松屋集 小林大茂著、小林辰蔵

明治二十七年(一八九四)刊 1冊 TY911.17:Y-340

袋付き。明治十七年飯田年平序、明治二十二年五月本居豊穎跋。松屋小林翁小伝明治二十六年二月天瀑足立正叡撰。

吉川半七(東京)印刷。

134 松屋集 小林大茂著、小林辰蔵

明治二十七年(一八九四)刊 1冊 TY911.17:Y-341

袋付き。明治十七年飯田年平序、明治二十二年五月本居豊穎跋。松屋小林翁小伝明治二十六年二月天瀑足立正叡撰。

- 吉川半七（東京）印刷。
- 135 天明四年詠草 鷺見歌枝著  
 天明四年（一七八四）写（仮綴） 1冊 TY911.17:Y-342  
 「保明母歌枝詠草。閏正月（天明四）の歌を整理し、芦門の評法を受けしもの。著者自筆」墨合点、訂正・添削あり。
- 136 無名草 鷺見寿仙尼著  
 享和二年（一八〇二）写（仮綴） 4冊 TY911.17:Y-343-1~4  
 「保明母、寿仙の鳥取移住後、自寛政七年至享和二年の詠草である。著者自筆」
- 137 天明五巳年詠草 鷺見慶明著  
 天明五年（一七八五）写（仮綴） 1冊 TY911.17:Y-344  
 「芦門の評点あり。自筆本」墨合点・添削訂正あり。
- 138 天明五乙巳歳詩歌稿 鷺見慶明著  
 天明五年（一七八五）写（仮綴） 1冊 TY911.17:Y-345  
 自筆本。墨合点・添削訂正あり。
- 139 天明六丙午歳詠艸 鷺見慶明著  
 天明六年（一七八六）写（袋綴） 1冊 TY911.17:Y-346  
 題箋書外題「三十八才詠草 廿四」
- 140 天明七未年詠艸 鷺見慶明著  
 天明七年（一七八七）写（仮綴） 1冊 TY911.17:Y-347  
 自筆。打付外題「天明七ひつし詩歌藁」。メモ「米子妙善寺芦門の評点あり。年間詠草の稿。芦門「この年母里の」
- 141 寛政六寅七卯歳詠草 鷺見慶明著  
 寛政六年（一七九四）写（袋綴） 1冊 TY911.17:Y-348  
 題箋書外題「寛政六寅七卯歳詠草 在江戸」。内題「寛政六寅のとし詠草」メモ「寛政七卯年詠草も同綴。兩年とも江戸にあり」
- 142 寛政八辰年詠草 鷺見慶明著  
 寛政八年（一七九六）写（袋綴） 1冊 TY911.17:Y-349  
 メモ「其年の詠草を清書し、九年詠草も合せる。自筆清書本」
- 143 寛政九丁巳のとし詠草 鷺見保明著  
 寛政九年（一七九七）写（袋綴） 1冊 TY911.170:Y-350  
 題箋書外題「寛政九巳歳詠草 江戸日記」。メモ「江戸在府中のこの年詠草。自筆清書本」
- 144 寛政十一未のとし詠草 鷺見保明著  
 寛政十一年（一七九九）写（仮綴） 1冊 TY911.17:Y-351  
 メモ「この年江戸に在り。年内の詠草を整理。自筆清書本」
- 145 寛政十二庚申年詠草 鷺見保明著  
 寛政十二年（一八〇〇）写（袋綴） 1冊 TY911.17:Y-352  
 メモ「四月まで在府。その前後詠草。帰藩時の紀行は別文。自筆清書本」
- 146 享和元辛酉歳詠草 鷺見保明著

- 147 享和元年(一八〇一)写(袋綴) 1冊 TY911.17.Y-3:53  
 メモ「年内詠草を整理浄書する。自筆清書本」
- 148 享和二戌のとしのうた 鷺見保明著  
 享和二年(一八〇二)写(仮綴) 1冊 TY911.17.Y-3:54  
 自筆本。
- 149 享和二戌のとしのうた 鷺見保明著  
 享和二年(一八〇二)写(仮綴) 1冊 TY911.17.Y-3:55  
 自筆本。衣川長秋添削。
- 150 享和三亥のとしの詠草 鷺見休明著  
 享和三年(一八〇三)写(仮綴) 1冊 TY911.17.Y-3:56  
 自筆本。メモ「この年より短冊型の用紙に詠草を記したが、これは、その中より自ら選び出し、それを衣川長秋が加筆している」
- 151 文化元子歳の歌 鷺見休明著  
 文化元年(一八〇四)写(仮綴) 1冊 TY911.17.Y-3:57  
 「文化元―四の詠草は短冊〔TY911.17.Y-4:2〕。これは家集編輯の料に、その短冊より選出したもの。休明自筆ならず。主として安喜筆」
- 152 文化二丑歳の歌 鷺見休明著  
 文化二年(一八〇五)写(仮綴) 1冊 TY911.17.Y-3:58  
 「朱・墨合点添削あり。休明自筆ならず。主として安喜筆」
- 153 文化三寅歳の歌 鷺見休明著  
 文化三年(一八〇六)写(仮綴) 1冊 TY911.17.Y-3:59  
 「朱・墨合点添削あり。休明自筆ならず。主として安喜筆」
- 154 文化四卯歳の歌 鷺見休明著  
 文化四年(一八〇七)写(仮綴) 1冊 TY911.17.Y-3:60  
 「朱・墨合点添削あり。休明自筆ならず。主として安喜筆」
- 155 鷺見翁歌集 鷺見休明詠、鷺見安喜筆編  
 文政三年(一八二〇)写(仮綴) 上下2冊 TY911.17.Y-3:61-1~2  
 文政三年鷺見安喜序。「齡十五六。宝曆十三・四年の頃より、鳥取本藩に出仕する寛政五年迄、伯耆時代の詠草より安喜が選んで家集としたもの。安喜筆」。
- 156 かたことのおぼえ 鷺見保合著  
 弘化三年(一八四六)写(仮綴くるみ) 2冊 TY911.17.Y-3:62-1~2  
 「弘化二年二月より三年八月までの詠草。なに人か詠草に〇印をつけ二冊に六十五とあり。保合自筆」
- 157 かたこと歌 鷺見安喜著  
 寛政年間、弘化四年(一八四七)写(仮綴) 36冊  
 TY911.17.Y-3:63-1~36  
 メモ「寛政年間わらはあそびより、弘化四年に至る約五十年間、生涯にわたる安喜詠草。鷺見安喜自筆。19保喜。10、11、16、18安喜、12、15、19、36安喜のごとく名乗り変更あり」。状態要注意。
- 158 心月詞花帖 高橋残夢著 河内屋記一兵衛板

- 弘化二年（一八四五）上下刊 2冊 TY911.17:Y-364-1-2  
 天保十四年冬霜月平重信序。メモ「木下幸文菅沼斐雄との生前の約を果すべく紀氏六帖題にて詠みしもの」  
 けいこ哥 吉田里世子著
- 158 元文六年（一七四一）写（仮綴） 1冊 TY911.17:Y-365  
 自筆。メモ「寛政六年没（休明詠草に出づ）。元文六年より寛保を経て延慶元年に至るまでの詠草集。比較的古き時代の令として収庫」
- 159 寛保はじめのとし哥集 吉田里世子著  
 寛保元年（一七四一）写（仮綴） 1冊 TY911.17:Y-366  
 自筆。
- 160 寛保三の歳和歌の扣 吉田里世子著  
 寛保三年（一七四三）写（仮綴） 1冊 TY911.17:Y-367  
 自筆。
- 161 百首異見 香川景樹著 河南儀兵衛・天王寺屋嘉兵衛・勝村治右衛門板  
 文政六年（一八二三）刊 5冊 TY911.17:Y-41-1-1～5  
 蔵書印「戸田氏」
- 162 百人一首異見抜書 TY911.17:Y-41-2  
 写（袋綴） 1冊 蔵書印「千種文庫」
- 163 土佐日記創見 香川景樹著 出雲寺文治郎板
- 天保三年（一八三二）刊 5冊 TY911.17:Y-41-3-1～5  
 蔵書印「大宮氏」
- 164 古今和歌集正義 香川景樹編 出雲寺文治郎板  
 刊9冊 TY911.17:Y-41-4-1～9  
 蔵書印「水仙堂図書之章」
- 165 古今集聞書 鷺見安喜稿  
 天保十四年（一八四三）写（仮綴） 1冊 TY911.17:Y-41-5  
 「未成稿ではあるが、古今集正義の説に従って、序文の行間の書き入れと頭註によって、理解に役立てようとするもの。これに対する堤右岑の批判説を右岑自ら朱書している」
- 166 古今和歌集正義全帙 香川景樹編 訂正再版、積善館  
 明治二十九年（一八九六）十月二日 活版（結綴） 4冊  
 TY911.17:Y-41-6-1～2  
 蔵書印「水京亭松堂氏蔵書印」
- 167 新學異見 香川景樹著 河南儀兵衛・出雲寺文治郎板  
 天保六年（一八三五）刊 1冊 TY911.17:Y-42-1  
 蔵書印「茅垣内蔵書」
- 168 新學考 香川景樹著  
 写（袋綴） 1冊 TY911.17:Y-42-2  
 蔵書印「宗隆」「也須美源宗隆」「宗隆」
- 169 新學異見辨 業合大枝著 河内屋儀輔板

文政十二年（一八二九）序・刊 1冊 TY911.17.Y-42-3

170 桂園一枝聞書 鎌田昌言筆記

写（袋綴）2冊 TY911.17.Y-42-41~2

弥富浜雄書写。奥書「明治三十八年三月井上通泰氏所蔵の本によりて寫しおく／彌富濱雄（印「秋邨」）メモ「井上通泰氏所蔵の本を副本として明治38年に弥富浜雄氏の写したるもの」。蔵書印「浜雄蔵書」。

171 大幣 望南亭述 河南儀兵衛・出雲寺文治郎

天保五年（一八三四）刊 1冊 TY911.17.Y-42-5

蔵書印「葛廼屋文庫」

172 大幣辨 丹羽氏暉著

天保八年（一八三七）写（袋綴）1冊 TY911.17.Y-42-6

中島広足書入本。卷末識語「此末面倒サニ止メ／＼人のいさかひいらぬ世話なるへし」。蔵書印「浜雄蔵書」。メモ「中島広足が朱書でもって、その諸説に対する批判を記入した者である。○桂園遺稿は広足の評を分割して別書として扱って活字に付してあるが、実はこの書に対する書入れである」。

173 ひくてあまた 松木猶秀著

明治四十年（一九〇七）写（袋綴）1冊 TY911.17.Y-42-7

石橋真國書入。奥書「嘉永五年孟月朔日 松木猶秀稿」識語（卷末裏表紙裏）「四十年五月三井生して写しと、めた

るなり 不二文房」中村秋香翁寄贈四十年五月云々之識

語者翁之筆也 弥富生（印「賓水珍□（蔵か）」／明治四

十年五月」。識語（2オ）「大ぬさ書入本のはしかき（大ぬ

さは秋山光彪（テルトラ）か桂園一枝の歌を評したるを桂

川中川自休か駁せしものなり」。蔵書印「やとみ」。メモ

1「花井有年が著した「大幣評判」に遠江人の孝季がその

「辨」をものした。これに評を加へてほしいというので「ひ

くてあまた」を著した。……この書はこの光・休・有・秀

の評に石橋真國が朱書を以て大ぬさに書入れたものを記入

したものである」メモ2「明治四年筆写。中村秋香識語、

弥富浜雄旧蔵。桂園遺稿所収」。識語（巻頭1オ）「此一冊

ハ琴園（松木直秀翁初名猶秀）手記ひくてあまたへ石橋真

國か大ぬさへ書入たる説を朱書せしなり。大ぬさ書入本ハ

小中村博士かもてるを明治廿五年二月借来て抄したるにて

朱書なるはこととく真國の説なり。」

174 桂園一枝拾遺評 小林歌城著

嘉永六年（一八五三）写（袋綴）1冊 TY911.17.Y-42-8

奥書「嘉永六年十二月十四日桑山人」。蔵書印「紅梅文庫」。

メモ「紅梅文庫蔵。桂園一枝拾遺中の難歌をぬきて小林歌

城 之が評を行い、さらにこれに仲田顕忠も朱記して評し

たるもの。」

175 桂園大人詠草奥書 香川景樹著

- 慶応三年（一八六七）写（袋綴） 1冊 TY911.17.Y-42-9  
 奥書「慶應三年卯霜月四日写訖／安井源則之」。蔵書印「安井氏蔵書」。メモ「慶應三年 安井則之の写したものであるが善写で、装幀も（袋綴）よろしく、表紙には桂丸の書入模様がある。」
- 176 桂園遺文 香川景樹著、鈴木源太輯  
 須原屋佐助・英文藏・和泉屋吉兵衛・山城屋佐兵衛・岡田屋嘉七・須原屋茂兵衛板  
 万延元年（一八六〇）刊 上下2冊 TY911.17.Y-42-10:1  
 ~2  
 表紙後補。蔵書印「浜雄蔵書」「印文不鮮明」
- 177 桂園遺文 香川景樹著 鈴木源太輯  
 須原屋佐助・英文藏・和泉屋吉兵衛・山城屋佐兵衛・岡田屋嘉七・須原屋茂兵衛板  
 万延元年（一八六〇）刊 上下2冊 TY911.17.Y-42-11:1  
 ~2  
 蔵書印「葛廼屋文庫」
- 178 哥学提要 内山真弓輯 吉川半七板  
 嘉永三年（一八五〇）刊 1冊 TY911.17.Y-42-12  
 宮内庁蔵版。明治配本。
- 179 六帖詠草解難 松本柳齋編  
 文化九年（一八一二）写（袋綴） 1冊 TY911.17.Y-42-13
- 180 麻奈飛乃當都伎 足代弘訓著  
 天保十二年（一八四二）写（仮綴） 1冊 TY911.17.Y-42-14  
 奥書「寛居大人阿波の国にてある人のとひに答られたるなり／天保十一年十一月廿一日伊勢の国寛居師許にて写ぬ永章」「同十二年十一月廿三日永章主か本をもて写終ぬ／庭□ぬしの古さとかへる家つとにせり 保成写」。メモ「足代弘訓 ある人の問に答へたる国学論」
- 181 活言考略 香川景樹述  
 明治四十年（一九〇七）写（袋綴） 1冊 TY911.17.Y-42-15  
 奥書「法眼享壽」「明治四十年八月／以竹内亨壽自筆本寫之 濱雄」。蔵書印「浜雄蔵書」
- 182 活言考 香川景樹説、高橋熊彦・弥富浜雄写  
 明治三十八年（一九〇五）写（仮綴） 1冊 TY911.17.Y-42-16  
 奥書「右活言考一卷ハ先大人遺稿此タヒ景／垣主ヨリ借テ臨寫シ畢ヌ／嘉永元年九月廿日／門人高橋熊彦謹写」「おなしく水無月廿一日 又寫しぬ／しけのふ」「明治三十八

- 年四月大學図書館本「華魁衆香」中ヨリ書抜ク 濱雄」。
- 蔵書印「やとみ」
- 183 和哥假字題 大塚寛柔編 秋田屋太右衛門板  
文化四年（一八〇七）刊 2冊 TY911.17:Y-42-17:1  
蔵書印「やとみ」。メモ「文化四年刊。再版は天保五年の景樹序あり」
- 184 和歌組題集 世外子編 梅村判兵衛・中井平次郎板  
延享四年（一七四七）刊 1冊 TY911.17:Y-42-18  
蔵書印を表紙に切り抜き模様とする。
- 185 千鳥のあと 中臣親満著 金花堂板  
文政二年（一八一九）刊 1冊 TY911.17:Y-42-19  
蔵書印「松浦仙□家蔵書」「志□図書館」
- 186 今古和歌うひまなび 鈴木重胤編輯  
弘化三年（一八四六）刊 1冊 TY911.17:Y-42-20  
端本合冊。
- 187 今古和歌うひまなび 鈴木重胤編輯  
弘化三年（一八四六）刊 1冊 TY911.17:Y-42-21 端本。  
寄居歌談 近藤芳樹著 井筒屋忠八郎板
- 188 弘化二年（一八四五）刊・写4冊 TY911.17:Y-42-22:1-4  
4冊目のみ写（袋綴）蔵書印「小林氏圖書之印」
- 189 橘平歌評 和泉真國著  
天保十五年（一八四四）写（袋綴）1冊 TY911.17:Y-42-23  
奥書「文化元年七月十五日 立入信友」「またいふさきに享和三年の冬大平のふみの中に／＼ 江戸和泉真国追々文返此比千蔭春海二家之歌を難論いたし見せに來り居論評志よろしく春海の歌さま／＼に破せられ候事適當にて御座候彼両家は故翁（信友云鈴屋翁の事也）在世に忘親ましく文返之人にて太平も又今以むつましくいたし候太平など春海が歌をそしり候は忘失敗に候へとも真国のあとに付て大平もいろ／＼評を加へ申候云々／十二月十四日／といひおこせたる事もありきかれかきそへつ／天保十五年二月二日写畢 長井裁之」。メモ「享和三年成。千蔭春海の百首歌の中より若干を論難せるもの。文化元年立入信友後記。天保十五年長井裁之写。福井久蔵博士旧蔵」。県立鳥取図書館原稿用紙「この書は福井久蔵博士の架蔵本なること、氏の著『大日本歌学史』二八二頁掲載の寫眞版によって知らる。福井久蔵博士没後その蔵書は散逸してほとんどが所在不明となりたる旨をかつて聞きたりしが、いまその一部を入手してふしぎの感あり この書は三十七年五月下旬東京駿河台の古書会館に於ける古本市にて偶然に入手したり 値は五十円以下なりしと記憶す 嘉」
- 190 和哥ねさめ草 藤原香著 山田三良兵衛板  
延慶元年（一三〇八）刊 1冊 TY911.17:Y-42-24



- 序文末尾「右の序文はいせの国山田しも中のさと祓谷氏の  
女津祢の筆なり 白田翁の姓名は六答に詳かなり 祓谷氏  
此まきを世に伝ん事を予にはかる予童蒙のために注解を加  
ねさめ草の号をかゝけて梓人にあたふこれとき延享きのへ  
子の神無月はしめの日 山田の寓客無名氏しるす」。内題  
下に「此さうしは白田翁藤原香ねさめのわさとて祓谷氏の  
女津祢に語り給へるを無名氏注解を加へて世に伝へむ事を  
やつかれにはかる固く写しとりて梓工にあたふまことしか  
り 山田人秦正秀」。蔵書印「越後□□氏□□」(丸印墨  
滅)
- 191 嚶々筆語 野之口隆正「ほか」著 近江屋佐太郎板  
天保十三年(一八四二)刊 1冊 TY911.17.Y.4:2.25  
メモ「野之口隆正らの随筆16編。西田直養秀吉は正親町  
天皇の子<sup>[2]</sup>」
- 192 嚶々筆話 野之口隆正「ほか著、勝邑治右衛門・近江屋  
佐太郎板  
天保十三年(一八四二)刊 1冊 TY911.17.Y.4:2.26
- 193 縣居問答書  
写(仮綴) 1冊 TY911.17.Y.4:3-1  
メモ「真淵が信幸の間に答えたるもの。信幸は(長瀬真幸  
か)衣川長秋写」巻末「一 村田春門當夏りん病とやらん  
承るをさしての事とも誰も不思に段々わろくて九月十九日
- 194 死去と申来夢か現か驚候事也(以下略) / 十一月八日誌  
小夜あらし  
写(袋綴) 1冊 TY911.17.Y.4:3-2
- 195 藤井高尚鷺見安喜答問書 鷺見安喜筆  
天保年間写(仮綴・長帖綴、横本) 2冊  
TY911.17.Y.4:3-3:1~2
- 196 本居内遠衣川広滋答問書  
天保十四年(一八四三)写(仮綴) 1冊  
TY911.17.Y.4:3-4
- 197 柿園講席 万葉集 加納諸平編  
写(仮綴) 2冊 TY911.17.Y.4:3-5:1~2  
①桐林広滋草稿か。②「萬葉二ノ卷磐姫皇后の御哥」。メ  
モ「加納諸平桐林広滋答問録」各自筆。
- 198 飯田秀雄鷺見安喜答問録 歌論

- 写(折紙) 4冊 TY911.17.Y.4:3:6:1~4
- ①「安喜大人秀雄大人答問録」(歌論につき)。②「雜問答」、朱入り。③「歌合判詞につき」、朱入り。④「衣川長秋著新古今集渚の玉その補訂に關連して鷺見安喜飯田秀雄答問書」各自筆。
- 199 「榎並隆璉・林宣義答問録」  
 写(仮綴) 1冊 TY911.17.Y.4:3:7  
 「榎並隆璉・林宣義答問書」、各自筆。メモ「美濃紙二つ折り二枚(14×164)なれど細字長文歌論につき入念な論を交わす」。問いに対して朱書にて返答。※国文学研究資料館の目録に落ちたり。3:3。
- 200 「林宣義詠草 香川景樹同詠」  
 写(折紙) 1冊 TY911.17.Y.4:4:1  
 宣義詠草に景樹が朱にて添削。
- 201 「林宣義詠草 香川景樹加點」  
 写(仮綴) 1冊 TY911.17.Y.4:4:2  
 宣義詠草、景樹墨にて加點添削。メモ「前書と共に黒岩氏著書に収録」。
- 202 近藤光輔詠草 香川景樹評 弥富浜雄書写  
 写(仮綴) 1冊 TY911.17.Y.4:4:3  
 詠は墨、評は朱、後の訂正書入(墨)あり。巻頭「光輔(長崎人近藤半五郎)詠、景樹(京都人上総助)」。書入
- 「浜雄云、景樹が上総助となれる事諸書に見えず恐らくは誤ならんか」。巻末「景樹が評はしめて見しまゝにうつしおきぬ／景樹は落陽の人也光輔は長洲人也／天保七年五月二十七日 素當」「右は原本を中島廣足より本問素當に見せたるを素當やかて寫しおけるを高瀬隆輝中島廣徳とつきく〜にうつせりそを弘化五／年正月十八日に林田正久寫しおけるをことし明治二十七年九月浅野輝之ぬし又寫さんとて林田氏より借られたるをおのれ先つとて寫しおきぬ／長月の十七日 濱雄(印「やとみ」)」「此本今開きみればあまりに拙字なるのみならず誤字さへ折々まされるはいま写し改めぬ／明治三十九年六月十八日 濱雄(印「秋邨」)」。藏書印「濱雄藏書」「やとみ」
- 203 青木永章「ほか」詠草 香川景樹評 弥富浜雄書写  
 写(仮綴) 1冊 TY911.17.Y.4:4:4  
 原稿用紙(「彌富濱雄藏書」)。朱入り。外題「柘植蔭夏／青木永章／々永古／詠草／香川景樹評」巻頭朱書「中島廣足雜詠中より書拔」。
- 204 あきの道くさ「草稿」 鷺見保明著  
 写(折紙) 1帖 TY911.17.Y.4:4:5:1
- 205 あきの道草 上巻「稿」 鷺見保明著  
 写(折紙) 1帖 TY911.17.Y.4:4:5:2
- 206 春懷旧 鷺見保明詠

- 写(折紙) 1帖 TY911.17.Y.4.4.5.3  
鷺見保明「春懐旧」橘千蔭添削。亡父の供養のための詠草。
- 207 鷺見安喜詠草 本居大平評釈添削  
写(折紙) 1帖 TY911.17.Y.4.4.6.1  
鷺見安喜詠草を本居大平が添削したもの。包み紙残存。
- 208 「牛嶋弘福寺紀行文」 鷺見安喜著  
写(折紙) 1帖 TY911.17.Y.4.4.6.2  
牛嶋弘福寺紀行文を本居大平が添削したもの。
- 209 名和長年をしのびてよめる歌 鷺見安喜詠  
写(折紙)。1帖 TY911.17.Y.4.4.7.1  
包み紙現存。鷺見安喜の詠、伴信友添削朱入り。
- 210 伯耆國大山ノ考、加和良山ノ考 鷺見安喜著  
写(折紙) 1帖 TY911.17.Y.4.4.7.2  
貼紙あり。伴信友添削朱入り。
- 211 伯耆國の地名について 鷺見安喜著  
写(折紙2紙) 1帖 TY911.17.Y.4.4.7.3  
伴信友添削朱入り。
- 212 馬の毛哥合畧解[答問] 鷺見勘解由著  
写(折紙) 1帖 TY911.17.Y.4.4.7.4  
裏打ち、貼紙あり。伴信友添削朱入り。
- 213 山寺の文 鷺見安喜著  
写(折紙) 1帖 TY911.17.Y.4.4.7.5
- 『文稿』と一部同「山寺に月のあかりける夜誦経の声き  
こゆといふを題にて」「破なのしをりのしり書」伴信友添  
削朱入り。
- 214 文稿 鷺見安喜著  
写(仮綴) 3冊 TY911.17.Y.4.4.8.1-1~3  
藤井高尚添削墨筆、貼紙あり。
- 215 愚稿 鷺見安喜著  
写(仮綴) 1冊 TY911.17.Y.4.4.8.2  
藤井高尚添削墨筆、貼紙あり。
- 216 「藤井高尚歌論評」 加納諸平評  
写(仮綴) 1冊 TY911.17.Y.4.4.9.1  
藤井高尚の見解に対し、加納諸平が批評を朱書、書入した  
もの。朱は二色有り。「貫之主の書かれたる古今集」。山本  
メモ「本稿に対する寸考」
- 217 「藤井高尚歌論評」 加納諸平評  
写(仮綴) 1冊 TY911.17.Y.4.4.9.2  
藤井高尚の見解に対し、加納諸平が批評を朱書、書入した  
もの。朱は二色有り。
- 218 「類題鯁玉集応募歌稿」 鷺見安喜詠  
写(仮綴) 1冊 TY911.17.Y.4.4.10.1  
撰歌朱合点。鷺見安喜詠、加納諸平撰。
- 219 歌集 春のはじめに 鷺見安喜詠

- 写(仮綴) 1冊 TY911.17:Y-4-4-10:2
- 220 歌集「七夕の歌」 鷺見安喜詠  
写(懐紙二つ折り) 1帖 TY911.17:Y-4-4-10:3
- 221 帰鶯 鷺見安喜詠  
写(仮綴) 1冊 TY911.17:Y-4-4-10:4  
〔歌集〕巻頭歌題「帰鶯」
- 222 詠草 年のはしめに 鷺見安喜著  
写(仮綴) 1冊 TY911.17:Y-4-4-11
- 223 〔鷺見安喜詠草〕 鷺見安喜筆  
写(折紙) 1巻 TY911.17:Y-4-4-12  
包紙残存、返書一通。井上文雄添削、鷺見安喜詠草。朱合  
点、評。各自筆。書によると四月十二日。
- 224 歌人評 衣川長秋著  
写(折紙) 2葉 TY911.17:Y-4-4-13  
山本メモ「衣川長秋評論、当時著名歌人評」。藤井高尚、  
木下幸文、御所一柳春門村田直樹。千蔭、景樹、枝直など。
- 225 太朝臣拜詞答問書 鷺見安喜問 衣川長秋答  
写(折紙) 4葉 TY911.17:Y-4-4-14
- 226 〔衣川長秋添削稿ほか〕 鷺見保喜歌  
写(折紙) 5葉 TY911.17:Y-4-4-15
- 227 〔香川景樹歌の評〕 飯田秀雄筆  
写(折紙) 1葉 TY911.17:Y-4-4-16:1
- 228 〔加納諸平歌の評〕 飯田年雄評 飯田年平筆  
写(折紙) 1葉 TY911.17:Y-4-4-16:2  
諸平歌、秀雄評、年平筆。
- 229 〔鷺見安喜歌の評〕 飯田秀雄筆  
写(折紙) 1葉 TY911.17:Y-4-4-16:3  
鷺見安喜の歌(自筆)に飯田秀雄が評(朱・自筆・貼紙)  
を添えたもの。

\*紙幅の都合上、書状・近代資料編は次号に続けます。

本研究は平成二九年井上円了研究助成を受けたものです。

閲覧・調査研究にあたり、東洋大学附属図書館及び、鳥取県立図書館・鳥取県立博物館、海上自衛隊第一術科学校教育参考館の方々に  
ご協力・ご教示いただきましたことを厚く御礼申し上げます。

## **KOKUGAKU and Sumi-Bunko: A list and study of Toyo-Bunko in Toyo University Library 2**

OUCHI, Mizue

### **Abstract :**

SUMI Yasuaki is waka poet in Tottori. Yasuaki and the whole families wrote a waka poem from generation to generation. And they collected books. Sumi-Bunko means it.

They learned the study of ancient Japanese thought and culture. The poetry was corrected by two waka poets, Tachibana Chikage and KINUGAWA Naga-aki. Chikage is Kamono Mabuchi's pupil, Naga-aki is Motoori Norinaga's pupil. This archives indicates their correction method.

A part of the Sumi-Bunko is stored up at Toyo-Bunko and is possession of Toyo University Library now.